



# リーダーズUMI

宇美町スポーツ少年団

〒811-2121 糟屋郡宇美町平和1-1-1

宇美町住民福祉センター内

Tel 092-933-2784・Fax 933-2741

Eメール umi-machi.j.s.c.a@leo.bbiiq.jp

編集:宇美町リーダー会



開会式終了後にリーダー会主導による、「関所破り」や「ジェスチャーゲーム」のレクリエーションを楽しみました。



シップス活動の後には、大塚製薬の大田原先生に、熱中症予防のための講義を行っていただきました。リーダー達が細部にまで注意を払い、参加した団員たちもおしゃべり一つせずに講義に集中していました。

## シップス活動・熱中症予防講習会 リーダー会が全体交流レクを指導 この経験は将来きっと役に立つ！

9月3日(日)に宇美町総合スポーツ公園と宇美南町民センターにおいて、シップス活動交流会と熱中症予防講習会が開かれました。

今年は、12単位団から120名の団員が参加し、リーダー会主導によるレクリエーションを楽しんだ後は、12班に分かれて、大縄跳び・いろいろドッジボール・五本綱引きに挑戦しました。

レクリエーション活動などで、100人を超える人を思い通りに動かすことは、本当に難しいことですが、リーダー達は、大きな声を掛け合うなど、全体運営をはじめ、各班の班付リーダーとして、参加者を一つにまとめ交流大会を盛り上げました。こうした経験は大きな自信となり、将来様々な場面できっと役に立つでしょう。



大縄跳びは、声を合わせて団員の心を一つにしないと回数は跳べません。リーダー達は、大きな声を出してみんなを引っ張っていました。

## 日韓青少年スポーツ交流 テコンドーと武道交流 誠心館空手道・飛凰会

9月1日(金)に、韓国のソウル市にあるキョンヒ大学が運営するテコンドー道場が宇美町を訪れ、日韓スポーツ交流を行いました。

今回は誠心館空手道と飛凰会との武道交流が実現し、宇美町リーダー会に所属する橋本悠杜君や麻生侑利君も積極的に交流を深めました。

言葉はほとんど通じませんが、コミュニケーションは身振りでもかなり伝わり、お互いに技を教え合うなど、笑顔あふれる国際交流となりました。



テコンドーの蹴り技である「跳び回し蹴り」を教えてもらっているリーダー会の橋本悠杜君と麻生侑利君。実戦で使えるように現在習得中です。



★宇美町スポーツ少年団リーダー会には、現在35人のリーダーが活動しています。気軽に参加してね！



「ナンバーコール」の後には、「人間知恵の輪」でアイスブレイクを行い、「いうこといっしょ・やることいっしょ」、「馬跳びレース」で交流を深めました。

## 九プロミニバス交流大会 夏休み最高の思い出をつくろう！ 県リーダー会がオープニングレクを担当

九州ブロックスポーツ少年団ミニバスケットボール交流大会が8月25日(金)～27日(日)に春日市総合スポーツセンターと大野城市総合体育館で開催されました。福岡県リーダー会では、九州各県から集まった約300人の参加者に、夏休み最高の思い出をつくってもらおうと、開会式後のオープニング交流会を担当しました。

県リーダー会に所属する田中優羽さんと田中和君、寅田紗也香さん、佐藤匠君は、3か月前から準備をすすめてきました。少し時間が押ししてしまい、大勢を動かすことのむずかしさを実感しましたが、交流会は大成功を収めました。



宇美町スポーツ少年団から誠心館宇美八幡本部の佐藤匠君、合気道祥雲塾の寅田紗也香さん、ひばりが丘チェリオの吉本絢音さん、事務局長の丸山康夫さんが参加して全国の仲間たちと交流してきました。来年は茨城県で開催されますよ！沢山の申し込みをお待ちしています。

## 第55回全国スポーツ少年大会 全国の仲間と新潟県妙高市で交流 宇美町リーダー会から3人が参加

7月28日から31日にかけて、新潟県妙高市で開催された第55回全国スポーツ少年大会に、宇美町スポーツ少年団リーダー会から3人が参加しました。

今年から中学・高校生が参加対象となり、将来町団や県団を引っ張っていくリーダーの育成に主眼を置いた大会となりました。

障がい者スポーツの「車いすバスケットボール」・「ボッチャ」・「卓球バレーボール」の体験会や、スキーのサマージャンプを目の前で見学したり、ボルダリングやスケートボード等のオリンピックの新種目を体験するなど、参加者は見聞を大いに広めました。

今回の大会は、日独同時交流で来日しているドイツのスキューゲントの仲間たち12人も活動に参加し、交流を深めてきました。



障がい者スポーツの車いすバスケットボールやボッチャ、卓球バレーボールを体験しました。

これら障がい者向けに考案されたスポーツは、健常者でも大いに楽しむことができますし、障がいをもった方々と一緒にスポーツ活動を楽しむことで、障がい者に対する理解が深まります。これらのスポーツ活動を通して、共生社会の実現に向けた第一歩を踏み出すことができると実感しました。

宇美町スポーツ少年団でも、2020東京パラリンピック大会を機に、こうした障がい者スポーツの体験会を開催することも大切なことだと感じました。



リーダー会の佐藤匠君。オリンピック新種目のボルダリングに挑戦しました。「今回は4m位までしか登らなかつたけど、それでもかなり怖かった。いつか15mの高さに挑戦してみたいです。」と語っていました。



ドイツ団の仲間達は、キャンプファイヤーで民族ダンスを披露してくれました。そのあとは参加者全員で汗だくになりながら、ジンギスカンダンスなどでメッチャ盛り上がり、夏休み最高の思い出を作ってきました。